（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　くるむ			
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～	2026年2月10日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	39家庭	（回答者数）	39家庭
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～	2026年2月10日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10人	（回答者数）	10人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	早期発見・早期介入の視点から、お子様の成長の土台を作る「感覚遊び」や、個々の発達段階に合わせたきめ細やかなプログラムを提供できます。就学前という重要な時期に、ご家族と伴走しながら適切な支援の方向性を定めていく専門性が最大の武器です。	「感覚」を入り口にしたスモールステップの支援	スタッフの専門性向上 ・事例検討会の定例化 ・外部講師を招いた専門研修
2	相談支援事業所や自治体、地域の医療・教育機関との窓口機能を果たしている点が強みです。	「見通し」を立てるための環境設定（構造化）	ICT活用による「情報の見える化」と保護者連携の強化 ・デジタル連絡帳の使い方の工夫 ・個別支援計画のフィードバック強化
3	お子様の特性を幼少期から深く理解しているスタッフが、成長に伴う環境の変化（小学校入学など）を見越したアドバイスを行えます。「場所が変わっても支援の質や方針が変わらない」という一貫性は、保護者にとって最も信頼のおけるポイントになります。	保護者の「孤立」を防ぐ伴走型コミュニケーション	地域資源との「顔の見える」ネットワーク構築 ・学校・園との実質的な連携の充実 ・防災・防犯を通じた地域交流

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	少人数制（定員10名）ゆえの「集団スキルの限定化」	環境のギャップ: 施設内は構造化され、配慮が行き届いていますが、一歩外に出れば（学校など）刺激が多く、配慮が少ない環境が待っています。	もうすぐ２店舗目が開所される予定なので集団を大きくしての活動などを計画していきたい。
2	研修をまんべんなくスタッフが受けられる制度	決まった職員が研修を受けることが多いため、なかなか全職員が法律で決められた研修以外を受講することができない。	様々なスタッフが研修を受けられるようにしていきたい。
3	保護者に向けた研修や相談会、懇談会などの企画運営があまりできていない。	目の前の子どもたちとの活動に追われ余裕をもって保護者との時間をもつことができていない。	ペアレントトレーニングは今年度より開始できたものの、懇親会を実施するに至っていないのでニーズを聞き取ったうえで年間計画に組み込んでいきたい。